第100回　私のスケッチブック

「ギルドの佇まいの残る広場」

市庁舎前広場／アントワープ（ベルギー）

ここは、アントワープ市庁舎前のグローテ・マルクトと云うギルドハウスに囲まれた美しい広場です。中央に町の名前の由来となった「ブラボーの噴水」が建っています。ステルデ川の川岸の城に住んでいた巨人が、通行税を徴収して町の人達を苦しめたので、ローマの戦士・ブラボーがこの巨人の息を止めて切り取った腕を川に投げ捨てた…。Hand（手）をWerpen（投げる）と云う意味から、この町がAntwerpenと呼ばれるようになった伝説です。私の大好きなフィリップス・ビスケットもこの巨人の腕がモチーフとなっていますから、町のシンボル的な存在です。

中世後期にブルージュの賑わいが後退し、この町はドイツのケルン商人と結び付きを強めて、大航海時代には海運で繁栄を極めます。そして、ユダヤ教のコミューンが形成され、現在もダイヤモンド取引で世界の中心地となり、出版業も栄華を誇りプランタン・モレトゥス印刷博物館は世界遺産にも登録されています。

私が欧州の物流を学んだのもこの地がスタートで、アントワープ中央駅が工事中の為にパリとアムステルダムを結ぶタリス号は、ベルヘムが臨時の停車駅でした。

この欧州第二の港の物流で忘れられないのは「ナーシー企業」です。1260年代に港の運営を任された協同組合のような特権組織で、現在も健全に運営されています。「コットン・ナーシー」（綿花を取り扱う物流組合）や「バナナ・ナーシー」など取り扱う商品毎に組織化されています。港には5か所の油槽所があり、石油化学の精製所が立ち並ぶコンビナートを形成していますから物流マンの勉強の聖地でした。

意外に知られていないのが…、1920年にオリンピックがこの地で開催され、日本人では熊谷一弥選手がテニスで銀メダルを獲得しています。

延原 愼吾

1946年、岡山県生まれ。現在、東京都内在住。物流会社を経営するかたわら欧州物流コンサルタントとして渡欧の際、歴史的建造物及び風景の美しさに魅せられて水彩画を始める。
「第70回 全国カレンダー展」に11度目の入選を果たし、その実力を発揮する。
http://www.urban.ne.jp/home/nobu36

水彩画　延原　検索